

## バウハウス叢書2「教育スケッチブック」について

小島陽子（日本大学大学院芸術研究科・造形芸術専攻修士修了）

1919年、ヴァルター・グローピウスによって新しい形態の美術学校としてバウハウスを設立し、そこで「手工芸」と芸術の統合としての「大建築」という二つの理念を掲げた。1925年から30年の間に、グローピウスとモホリ・ナギの監修において14から成るバウハウス叢書が出版された。このプロジェクトの目的は、バウハウスの課題及び業績を紹介することであった。

バウハウス叢書の第2巻の著者パウル・クレーは、1920年にバウハウスへ招喚され、その翌年から着任し、そこで造形的形態論を講義すると同時に、生徒と共に研究し、クレー自身の芸術論を追究した。本書は、①線と構造、②次元、③地球の運動、④運動とエネルギーの4部構成となっている。形態の基礎となる線や線から生み出される空間からはじまり、自然や宇宙のエネルギーの構造が、スケッチブックという名のとおり、著者自身による挿絵で表現され、クレーの形態論、形象論というものが強く浮き出ている。

### パウル・クレー

1879年12月18日、ベルン近郊のミュンヘンブーフゼーに生まれる。音楽一家に生まれたクレーは、自身も音楽に関心を示すが、1900年から美術学校でフランツ・フォン・シュトゥックに師事する。カンディンスキーやアウグスト・マッケと交流を深め、1912年「青い騎士」の第2回展覧会に参加する。1921年から1931年にバウハウスで教鞭をとり、その後デュッセルドルフ美術学校の教授となったが、1933年にナチスの弾圧によりベルンへ亡命することとなる。晩年は、皮膚硬化症の病と闘いながら、「天使」シリーズを創作し、1940年6月29日ムラルト・ロカルノで亡くなる。

### 代表作品

連作「インベンション」（1903-04年、銅板画）

「セネシオ」（1922年、油彩、バーゼル美術館）

「金色の魚」（1925年、油彩、ハンブルク美術館）

「パルナッソス山へ」（1932年、油彩、ベルン美術館）

「天使」（1939年、鉛筆、ベルン美術館）

### 関連HP

バウハウスの総合ホームページ <http://bauhaus-online.de/>

## 関連文献

### 著者自身による著作

1956, KLEE (Paul), *Das bildnerische Denken: Schriften zur Form- und Gestaltungslehre*, Basel/Stuttgart, Schwabe & Co.

(1973, クレー (パウル), 「造形思考」, 東京, 新潮社, (訳)土方定一, 菊盛英夫, 坂崎乙郎)

1957, KLEE (Paul), *Tagebücher*, Köln, DuMont.

(1961, クレー (パウル), 「クレーの日記」, 東京, 新潮社, (訳) 南原実)

1970, KLEE (Paul), *Unendliche Naturgeschichte Form- und Gestaltungslehre*, Basel/Stuttgart, Schwabe & Co.

(1981, クレー (パウル), 「無限の造形」, 東京, 新潮社, (訳) 南原実)

1976, KLEE (Paul), *Schriften, Rezensionen und Aufsätze*, Köln, DuMont, (ed. Chrstian Geelhaar)

1979, KLEE (Paul), *Beiträge zur bildnerischen Formenlehre: faksimilierte Ausgabe des Originalmanuskripts von Paul Klees erstem Vortragszyklus am staatlichen Bauhaus Weimar 1921/22*, Basel/Stuttgart, Schwabe & Co.

(1988, クレー (パウル), 「パウル・クレー手稿 造形理論ノート」, 東京, 美術公論社, (訳) 西田秀穂、松崎俊之)

1991, 「教育スケッチブック」(バウハウス叢書2), 東京, 中央公論出版, (訳)利光功

### クレーに関する研究

1954, GROHMANN (Will), *Paul Klee*, Stuttgart, W. Kohlhammer

1960, KLEE (Felix), *Paul Klee*, Zürich, Diogenes

(1962, クレー (フェリックス), 「パウル・クレー」, 東京, みすず書房, (訳)矢内原伊作, 土肥美夫)

1961, HAFTMANN (Werner), *Paul Klee –Wege bildnerischen Denken-*, Frankfurt am Main, Fischer Bücherei

(1982, ハフトマン (ヴェルナー), 「パウル・クレー 造形思考への道」, 東京, 美術出版, (訳)西田秀穂, 元木幸一)

1963, 坂崎乙郎, 「クレー」(美術選書), 東京, 美術出版

1969, HUGGLER (Max), *Paul Klee –Die Malerei als Blick in den Kosmos-*, Frauenfeld, Huber

(1974, フグラー (マックス), 「クレーの絵画」, 東京, 紀伊國屋書店, (訳) 土肥美夫)

1972, GEEHLHARR (Christian), *Paul Klee und das Bauhaus*, Köln, DuMont

1974, GEEHLHARR (Christian), *Paul Klee Leben und Werk*, Köln, DuMont

1981, WERCKMEISTER (Otto Karl), *Versuche über Paul Klee*, Frankfurt am Main, Syndikat

1990, KERSTEN (Wolfgang), *Übermut –Allegorie der künstlerischen Existenz -*, Frankfurt am Main, Fischer Taschenbuch

(1997, ケルステン (ヴォルフガング), 「クレー 大はしゃぎ」, 東京, 三元社, (訳)池田祐子)

2001, 西田秀穂, 「パウル・クレーの芸術—その画法と技法と—」, 仙台, 東北大学出版会

2006, 「パウル・クレー：創造の物語」, 川村記念美術館 (6月24日～8月20日) 【**展覧会カタログ**】

2011, 「パウル・クレー：終わらないアトリエ」, 京都国立近代美術館 (3月12日～5月15日) 【**展覧会カタログ**】

2011, 「パウル・クレー特集 造形思考のコンスタレーション」, 東京, 青土社, ユリイカ4月号

2012, 前田富士男, 「パウル・クレー 造形の宇宙」, 東京, 慶應義塾大学出版